

# 悠久の京を訪ねて

Vol.1



京は古より人々が集い、その気候・風土を織り交ぜ、日本の中心地として生活が営まれてきました。それは京都府内の遺跡で多数発掘された出土品により縄文、弥生時代までさかのぼり、当時の様子を知ることができます。私たちが住んでいる地域にはどのような歴史があったのかを知ることは、これからの生活を考える上でも重要な事だと言えます。出土した資料を基に過去の文化やその発祥の歴史を訪ねましょう。

## 女谷・荒坂横穴群 — お墓もリサイクル!? —

京都府八幡市



### ■古墳時代おわり頃の家族のお墓

この遺跡は、横穴といわれる古墳時代のお墓です。お墓といっても今のお墓とは違い、丘陵の斜面に横穴を掘って部屋を造り、その部屋に棺を納めて死者の冥福を祈ったものです。このようなお墓は、京都府では八幡市と京田辺市の境界付近や丹後地域に多く分布しています。

横穴には死者を弔うときに使ったと考えられる土器のほか、鎌・刀などの武器、管玉・金銀の耳飾りなどの装飾品が副



女谷・荒坂横穴群

葬されていました。横穴は、通路により外とつながっていることから何度も使用できます。複数の人の骨が出土することから、1家族に1つの横穴が造られたと考えられます。

### ■大切な宝物—花形の鏡

興味深いことに女谷・荒坂横穴群では多くの横穴が古墳時代から数百年経った平安時代にお墓として再利用されたようです。写真の鏡は、平安時代に納められたものです。年月が経つと横穴は天井が崩れ平安時代には一回り小さな穴になっていたことでしょう。そこがその昔お墓だったとは知らなかったと思いますが…



瑞雲双鸞八花鏡